

1 いちよう小学校の概要 (平成25年5月1日現在)

いちよう小学校は、横浜市泉区上飯田町の神奈川県営いちよう団地の中に在り、子どもたちは全員がいちよう団地から通学しています。

かつては田園風景の広がる農村地帯でしたが、昭和40年代に団地が建設されて急激に人口が増加したため、人口の増加に伴って1973(昭和48)年5月に当地に開校しました。一時期は、児童数2000名を越える大規模校でしたが、現在は児童数161名余りの小規模校になっています。

- ◆開 校：昭和48年5月1日
(創立41年目)
- ◆学区：県営いちよう団地
- ◆児童数：161名(5/1現在)
- ◆学級数：普通学級6学級
個別支援2学級

◇いちよう小学校の特色の一つは、外国籍児童が多数在籍

外国籍児童が増えたのは、1998(平成10)年まで隣接する大和市に「インドシナ難民定住促進センター」があったことと関係します。研修が終わりセンターを出たインドシナ難民の方々が徐々にいちよう団地に住むようになり、近年は難民の方々の呼び寄せ家族に加え、中国帰国者家族等も入居するようになり、全校児童数が減少する中、外国籍児童は増える傾向があります。

年度(平成)	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
全校児童数	297	271	241	223	215	224	230	232	213	215	208	209	203	205	205	215	208	168	161
外国籍児童数	43	40	37	49	64	66	67	74	76	81	75	88	94	97	108	112	114	96	96
全体に占める割合(%)	14	15	15	22	30	28	30	31	36	38	36	42	46	47	53	52	55	57	60

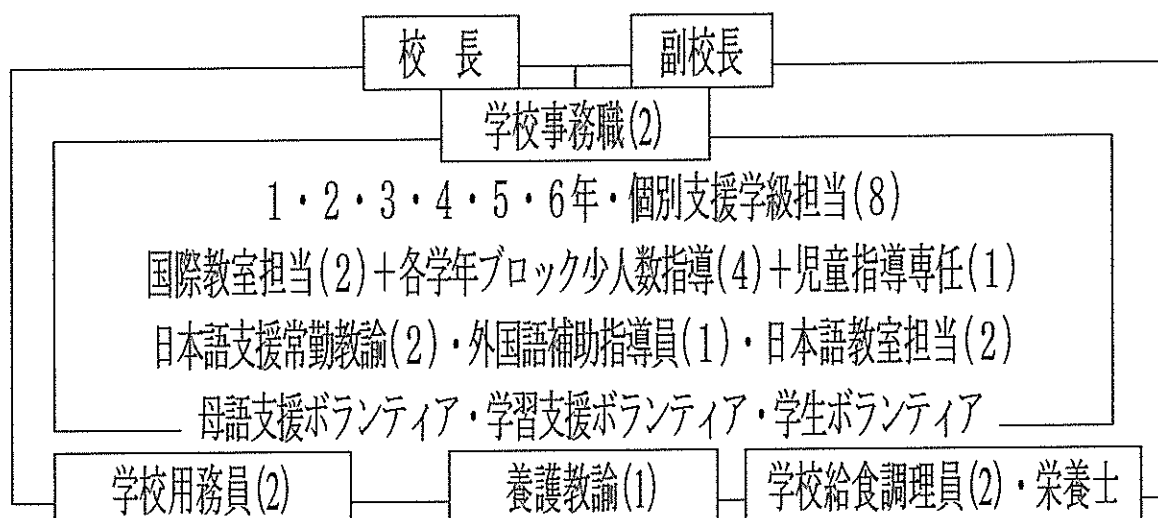
外国籍児童は、1989(平成元)年頃から増え始め、現在は96名が在籍しています。全校児童に占める外国籍児童の割合は約59.6%であり、外国にルーツをもつ児童(日本国籍取得児童)26名を含めた割合は約75.8%にのびります。つまり、全校児童の4分の3以上が外国につながる児童(外国籍または外国にルーツを持つ児童)ということになります。

2 いちよう小学校の指導体制

いちよう小学校では「外国につながる児童一人ひとりが安心して通える学校・安心して生活できる学校は、全ての子どもたちが安心して通い、そして、安心して生活できる学校である」との想いのもと、「よく学び よく遊び よく育つ いちようの子」の姿を求め、全職員で子どもたち一人ひとりを見つめ、見守り、指導・支援しています。

日常的・継続的に職種を越え、学年・ブロック等の枠を越え、共通の願い・目標に向かって協業・協働していく「全職員による協力指導体制」を基盤にして、子どもたち一人ひとりが安心して豊かに生活できる学校づくりの実現を目指しています。

また、広く学校を開き、地域関係者はもとより、ボランティア団体や大学関係者等とも協働して、子どもたちのより確かで豊かな学習・活動づくりを工夫・実践しています。



◇全職員による協力指導体制

全教職員による協力体制は、「朝の打ち合わせ」（月・木曜日 8 時 15 分～8 時 25 分）や「職員会議」「特別支援教育会議」「校内重点研究会」「学年ブロック研究会」等を生かして情報の共有化や目指す方向性等の共通理解を図っています。

また、2012（平成24）年度からは、担任や児童支援専任教諭が中心となって、日常的な児童指導等に関する様々な協力・支援の内容・方法が検討され、実践されるようになりました。

◇児童の実態に応じて日本語指導や教科指導

外国につながる児童への指導については、児童の実態に応じて日本語指導や教科指導が行われています。具体的には、横浜市教育委員会の設置した「いちょう日本語教室」で2名の日本語指導講師（中国語を話せる講師2名）による日本語の初期指導や生活適応指導、国際教室（ふれあい教室）担当による日本語指導や教科指導、25年度からは新たに日本語支援非常勤教諭と外国語補助指導員が配置され、子どもの日本語力に応じたきめ細やかな指導等が行われています。

3 いちょうの「まち」との連携・協働

多様な家庭環境に育つ子どもたち一人ひとりをより多くの目で見守るとともに、保護者同士及び保護者と地域の方々とのネットワークづくりを推進することは、子どもたちの健やかな成長、より安心して豊かに生活することのできる「まち」づくりを目指す上で極めて重要なことと捉えています。そのためにも「いちょうの『まち』と共に歩む学校づくり」の実現を願い、多様な連携・協働の場を創造していくことが求められています。

具体的には、常にいちょうの子どもたちを核として、いちょう団地「連合自治会」、「子ども会」、「学童クラブ」、「長寿会」、「青少年育成協議会」、「はまっ子ふれあいスクール」さらには子どもたちの日本語指導や学習支援に携わっている地域のボランティア団体等との日常的・継続的な連携・協働を推進したり、地域行事に積極的に参加したりするなどして、各団体と顔の見える関係をつくり、多方面から子どもを取り巻くネットワークづくりをさらに進めます。

◆いちょう団地連合自治会等との連携・協働

- ◎ 総会、役員会
- ◎ 「学童クラブ」役員会
- ◎ 「青少年育成協議会」「社会福祉協議会」総会、研修会
- ◎ 「年長者との交歓給食」（児童とのふれあい）
- ◎ 「団地まつり」（職員・PTA による餅つき）
- ◎ 「新年会」「クリーンキャンペーン」

これらに加え、定期的に行っている主任児童委員・民生委員との情報交換やコミュニティハウス実行委員会での協議、さらには「学童クラブ運営委員会」や「はまっ子ふれあいスクール」スタッフとの情報交換・協議等は、どれも本校の子どもたちの健全育成、安心のある豊かな生活づくりのために欠かすことのできない場となっています。

◆学校がいちょうの「まち」と連携・協働してつくり上げた教育活動

- ◎ 「いちょうの『まち』と共に学校づくりを考える会」（年2回開催）
- ◎ 長寿会やイキイキニーハオとの連携「いちょう団地クリーン作戦」（全学年児童との協働）
「クラブ活動支援」、「学援隊による登下校の見守り」（毎日）
- ◎ 「夏休み学習教室」（地域のボランティア団体の協力・支援）
- ◎ 「夏休みいちょう団地見回り・声かけ運動」
- ◎ 「運動会」「スポーツデー」「マラソン大会」（青少年指導員・体育指導委員との協働）
- ◎ 「学校説明会」・（学校懇談会）年間2回実施
- ◎ 「いずみっ子プログラム」（地域の特色）

学校懇談会の際に実施している「学校説明会」では、学校評価の結果をお知らせしたり、外国につながる保護者の様々な不安や疑問、学校教育に対する想いを聞いたりすることで、よりよい環境をつくっていくことに役立てることができました。また、「夏休み学習教室」や「夏休みいちょう団地見回り・声かけ運動」、さらには運動会・団地まつりにおいても、保護者のみならず地域の方々、ボランティアの方々との協力・協働を通して相互の信頼関係を強めることができています。

4 上飯田地区4校連絡会の取組

1998（平成10）年より設置された上飯田地区4校連絡会（いちょう小・飯田北小・上飯田小・上飯田中）は、外国につながる住民が多数居住する本地域において多文化共生の学校づくり・地域づくりを目指してここまで多様な実践活動を展開してきています。2012（平成24）年度からは、横浜型小中一貫教育の実施にともない、教職員の積極的な交流や授業参観等を行い、上飯田中学校ブロックのカリキュラムによる教科指導や児童生徒指導が行われています。

PTAについても、定期的に交流会をもつなど、上飯田中学校ブロックの4校は学校と家庭の連携を含めた取組が行われています。

※2003(平成15)年に、これまでの4校連絡会の実践が評価され「第34回博報賞」を受賞

具体的には、4校代表者の計画による4校教職員の連絡会・研修会や4校児童生徒交流会の開催、さらには、保育園・幼稚園、高等学校、各ボランティア団体等との懇談会・情報交換会の開催など、地道な取組を継続実践してきています。保育園（北上飯田保育園・いちよう保育園・YMCAいずみ保育園）幼稚園（明成幼稚園・上飯田幼稚園・大和あけぼの幼稚園）との交流活動（合同研修会、児童園児の日常交流、相互懇談会への参加等）も活発に展開されるようになってきました。

＜2012(平成24)年度の活動例＞

- ◇4校連携担当者会（5回／年開催）
- ◇泉ブロック担当者会（5回／年開催）
- ◇泉ブロック拡大委員会（2回／年開催）
- ◇4校児童生徒交流会（3回／年開催）
- ◇授業交流会（2回／年開催）

5 大学・地域ボランティア団体等との連携・協働

子どもたちの日本語指導や学習支援にかかわって、2001(平成13)年度より東京学芸大学の齋藤ひろみ先生の研究プロジェクト（外国籍児童への日本語指導に関わる研究、国際教室における日本語指導カリキュラムの開発研究）との協働研究に取り組んできました。プロジェクトは終了しましたが、今年度も引き続き、校内重点研究の講師として、算数科を通して「伝え合う力を育む」授業づくりについてご指導・ご助言をいただくことになっています。その指導を基に、全教員と共に研究協議を重ね、よりよい日本語指導・学習言語支援について相互の学びをつくり出しています。

また、学習支援者として、多くのの方に協力いただいています。その他、地域のボランティア団体「多文化まちづくり工房」とは、放課後学習教室や夏休みの学習教室を中心に子どもたちの学習支援をいただいたり、日常的な情報交換等を行いながら連携を図っています。今年度も、「多文化まちづくり工房」の支援を受け、幼保小連携推進地区事業の1つとして、入学前の子どものためのプレスクールを予定し、日本語と母語による絵本の読み聞かせも計画しています。

この他にも、近隣にお住まいで教員を退職された方に、朝の絵本の読み聞かせボランティアと学習支援ボランティアをお願いしています。

更に、命や平和を考える学習では、夢と希望を追い求めて難民となって母国を出てきた方、第二次大戦で中国大陸に残された中国帰国者の方々の体験談を伺い、平和の大切さ、命の尊さを知り、平和スピーチコンテストにつなげるため、地域にお住まいの方にボランティアとしてご協力いただいています。

学生のボランティアについても、明治学院大学や東京学芸大学で特別支援やことばの支援の研究をしている方に協力をいただき、本校の子どもが安心して学習したりいろいろな活動をしたりするときのサポートをお願いしています。